

2016WORLD ROWING SENIOR ,UNDER23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 12 (8/26)

昨日までの猛暑もなくなり比較的過ごしやすい天候になりました。U19はJW1x、JW2xの敗者復活、JM4xの準々決勝、JM2xの順位決定戦があります。シニアチームは明日の最終日に備えレースのない日に、U23は最後に残ったBLM4-の決勝が行われます。チームJAPANの総力が試される1日となりました。

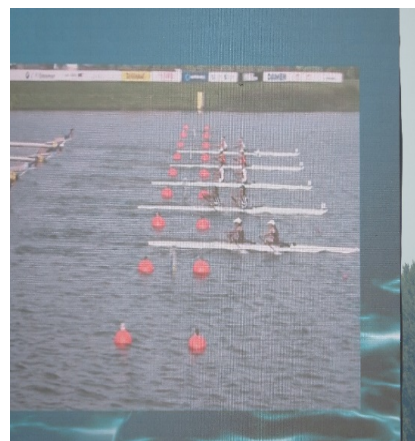
9:30 JW2x 敗者復活

2位までが準決勝に進める。日本はスタートから切れの良い動きで飛び出すが、すぐに追いつかれてしまう。それでも果敢に漕ぎ続け、見るものの目を引いた。500mは、上位進出通過ラインの2位チリから4.45秒差の4位。健闘が光る。第2クォーターに入ると少しずつ各国の間隔が開き始め日本もじりじりと離され始める。1000mの通過は変わらず4位だが、2位に行くチリとの差は8.36秒に開いてしまう。後半も上位との差は広がり続けるが日本の二人は最後まであきらめずに自分たちにできるベストを尽くし続ける。懸命のラストスパートはメインスタンドの観客の心にも響いたようで、感嘆の声を聴くことができた。



←笑顔で出艇していくJW2xクルー。

観客席から見える大型ビジョンの映像。一番手前が日本クルー。スタート5本は切れよく前に出た。



上位進出への望みは絶たれたものの思い切りの良いレースで日本チームに勢いを与えてくれたJW2x日本クルー

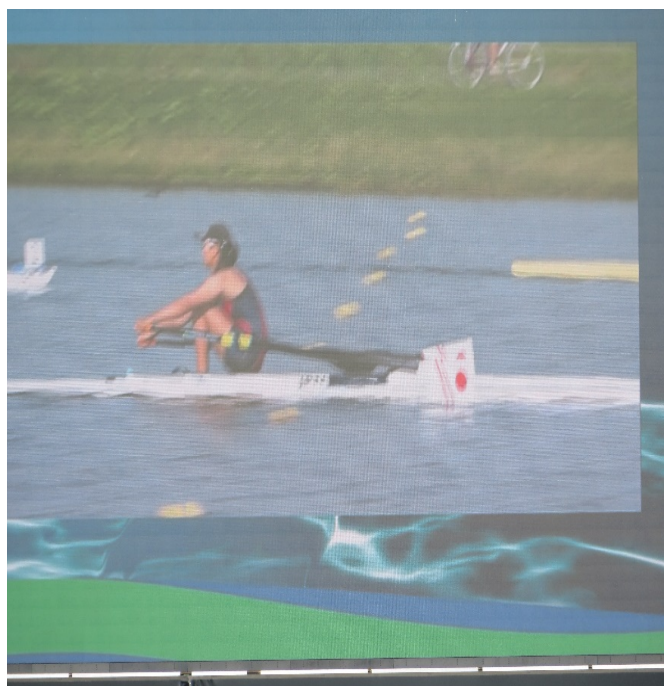
左からS新田選手（美方高校）、
B國元選手（唐津商業高校）

10:05 JW1x 敗者復活

2位までが準決勝に進めるレース。スタートからベルギー、地元オランダ、日本が飛び出しジンバブエとウズベキスタンが続く展開。500mは3か国並ぶようにして通過。3か国が0.22秒差に収まるレースとなった。第2クォーターに入ると地元オランダと日本がベルギーを抜き去り1000mの通過は1位オランダ、2位日本となる。3位ベルギーとの差は1.66秒差。前に出たものの全く気を抜けない状態が続く。第3クォーターに入ると、1位オランダと3位ベルギーが仕掛けペースが上がった。日本も必死についていこうとするが徐々に遅れ始め1500mの通過は2位に再浮上したベルギーから3.68秒差をつけられる。これ以上は離されたくない状況でラストクォーターを迎えるが、序盤から強豪国と競り合った影響からかペースを上げることができず3位でゴール。惜しくも準決勝A/Bに進むことはできなかった。



古田ヘッドコーチに見送られる大門選手（日田林工高校）



序盤は通過ラインの2位をキープする日本→



惜しくも準決勝A/B進出はならなかった日本：大門選手（日田林工高校）

10:30 JM4x 準々決勝

3位までが準決勝A/Bに進むことができるこのレース。スタートから日本は積極的に仕掛けるもロシア、フランス、ギリシャ、スロベニアの上位4か国からアルゼンチンと共に遅れ6位で通過。通過ラインの3位ギリシャからは4.91秒差をつけられてしまう苦しい展開となる。しかし日本はあきらめることなくひたすら前を追った。第3クォーター後半ではミスオールのあったアルゼンチンをかまし、5位に浮上。ラストクォーター、4位スロベニア以上がスパートをかけ差はさらに開いてしまったが、最後まで引き締まった漕ぎを貫き通し準決勝A/Bへの挑戦を終えた。



コーチたちに見送られ出艇するJM4xクルー



1500m地点、アルゼンチンとの差を広げる日本



堂々としたレースを演じた日本
JM4x 左からS吉田選手（加茂高校）、
3江島選手（青井高校）、2石塚選手
（田村高校）、B河畑選手（美方高
校）

11:45 JM2x FinalE：順位決定（25～30位）

スタートからパラグアイがかつとばしジンバブエ、ウクライナ、オーストリアが続き日本は5位で500mを通過することになった。しかし日本の二人は落ち着いてストロークを重ね第2クォーターのうちにウクライナとオーストリアを抜き去り1000mの通過では3位に浮上。第3クォーター、日本の艇速の勢いが増すと先行していたパラグアイもたまたらず後退。1500mでジンバブエを捉えるとそのままスパートし突き放し、25～30位決定レースながらもトップでゴールラインを駆け抜けた。



出艇するJM2xクルー



1500m地点で日本（奥）がトップに立つ様子が大型ビジョンに映し出された↑



ラストスパートをかける日本（奥）：JM2x左からS遠山選手（伏見工業高校）、B瀬戸選手（日本大学）

16:00 BLM4- 決勝

日本代表チームの全ての想いを背負って決勝の舞台に立つBLM4-クルー。スタートから各国が全開でぶっ飛ばしてくる。日本も中々のスタートをきれたが前には出ることができない。250mを過ぎるとポーランド、イタリア、ドイツが前に出始める。500mの通過は1位ドイツ、2位ポーランド、3位ポーランド、4位スイス、そして5位日本、続いてイギリスの順。第2クォーターに入るとドイツのスピードが際立ってくる。そのドイツに引っ張られるようにポーランド、イタリアが4位イギリス以下を引き離しにかかり、上位3か国までと4位以下のグループができ始める。日本は何とかメダル争いに加わりたところだが、思うように差を詰めることができない。1000mの通過は1位ドイツから6.37秒差、3位ポーランドからは3.31秒差。まだまだメダルは射程圏内に抑えているが状況を変えるまでには至っていない。第3クォーター、3位ポーランドを何とかとらえたいところで、日本と同様の位置にいたイギリスがじりじりとポジションを上げていた。1500mの通過は1位ドイツからは8.79秒差、3位ポーランドからは3.54秒差である。まだ望みはある。日本は最後の力を振り絞りスパートに入りポーランドとの差をみるみる詰めていくが、そのポーランドを凄まじいスパートで抜き去ったのはイギリスだった。日本もポーランドとの差をみるみる詰めたが、順位を上げることはできず5位でゴール。くしくも2014年、2015年と同じ順位で大会を終えることになった。



スタートの様子。手前から2番目が日本。



奥から2番目が日本。混戦から抜け出したいところだ。



必死のラストスパート、惜しくもメダル獲得はならなかった。

BLM4-：左からB志賀選手（日本大学）、2福井選手（東レ滋賀）3、荒川選手（一橋大学）、S佐藤選手（日本大学）

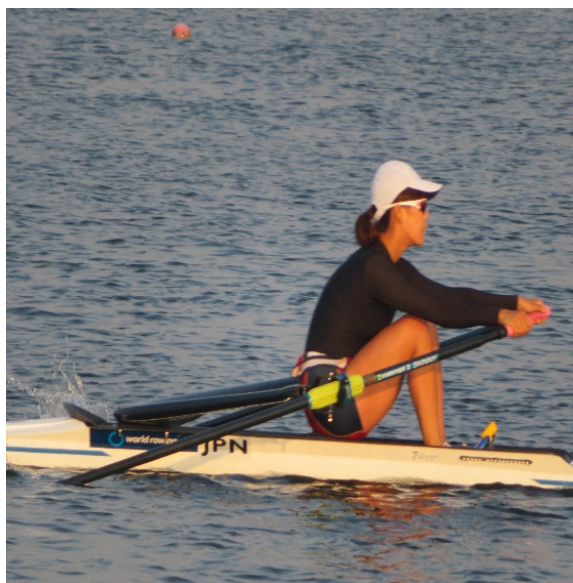
トレーニングの様子 (8/25)



LM2- 左からB小林選手（戸田中央総合病院RC）、奈良選手（新日鐵住金）



LM1x 池田選手（トヨタ紡織）



LW1x 上野選手（明治安田生命）



JW4x 左からB四方選手（朱雀高校）、2宇都宮選手（今治西高校）、3河原選手（若狭東高校）、S松井選手（今治西高校）

大会もいよいよ大詰めになってきました。最後まで一丸となって戦って参りますので、引き続きご声援よろしくお願い致します。